

主要事業個別シート(第2次実施計画/H27・28年度)

ver.1.01

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部
	19089	橋梁耐震化補強事業	室名	維持修繕室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	会計	01:一般会計
	基本施策	09:道路網の整備	款	08:土木費
	施策の方向	03:道路の安全性と防災機能の向上	項目	02:道路橋梁費
戦略プロジェクト	01:まち守りプロジェクト	目	07:橋梁整備費	
事業予定期間	H 16 ~ H - 年度	主な根拠法令要綱等	道路法・道路構造令・道路橋示方書	

② 目的・概要	対象	市民及び来訪者
	目的	平成7年に発生した阪神淡路大震災後、橋梁の耐震構造の見直しが行われたことに伴い、15m以上の市が管理する橋梁を対象に耐震補強を行い、市民の安心・安全の確保に努めるものである。
概要		平成7年に発生した阪神淡路大震災後、橋梁の耐震構造の見直しが行われたことに伴い、平成16年から緊急輸送道路、跨線橋、跨道橋の橋梁を対象に耐震補強工事を進めてきた。今後は東海、東南海及び南海地震が発生すると予測されていることから、平成23年度に策定した橋梁耐震化補強事業計画に基づき整備を進め、市民の安心・安全を確保する。

		平成27年度	平成28年度	
③ 年度別事業計画	計画額	・耐震設計 三寺橋・川合椋川橋	・耐震補強工事 川合椋川橋	
		事業費	20,000千円	53,000千円
		国庫支出金	11,000千円	29,150千円
		県支出金		
		地方債		
		その他		
		一般財源	9,000千円	23,850千円
	予算額	事業費	8,000千円	32,568千円
		国庫支出金	4,400千円	17,912千円
		県支出金		
地方債				
その他				
	一般財源	3,600千円	14,656千円	
期間内総事業費(H27・H28)①		73,000千円	期間外事業費(H29以降)② -	
			総事業費 (①+②) -	

				平成27年度	平成28年度	(参考・平成29年度)	
①	名称	耐震補強済み橋梁数(累計)	活動	計画値	22	23	24
	補足	耐震補強工事が完了した橋梁数		単位	橋	橋	橋
②	名称			計画値			
	補足			単位			
③	名称			計画値			
	補足			単位			
④	名称			計画値			
	補足			単位			

事務事業評価シート

H28(主要事業)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部
	19089	橋梁耐震化補強事業	室名	維持修繕室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	財 会計	01:一般会計
	基本施策	09:道路網の整備	務 款	08:土木費
施策体系	施策の方向	03:道路の安全性と防災機能の向上	科 項	02:道路橋梁費
	戦略プロジェクト	01:まち守りプロジェクト	目 目	07:橋梁整備費

② 目的・概要	対象	市民及び来訪者
	目的	平成7年に発生した阪神淡路大震災後、橋梁の耐震構造の見直しが行われたことに伴い、15m以上の市が管理する橋梁を対象に耐震補強を行い、市民の安心・安全の確保に努めるものである。
概要	平成7年に発生した阪神淡路大震災後、橋梁の耐震構造の見直しが行われたことに伴い、平成16年から緊急輸送道路、跨線橋、跨道橋の橋梁を対象に耐震補強工事を進めてきた。今後は東海、東南海及び南海地震が発生すると予測されていることから、平成23年度に策定した橋梁耐震化補強事業計画に基づき整備を進め、市民の安心・安全を確保する。	

		27年度	28年度
①	名称	耐震補強済み橋梁数(累計)	計画値 22
	補足	耐震補強工事が完了した橋梁数	実績値 22
		単位	橋
②	名称	計画値	
	補足	実績値	
		単位	
③	名称	計画値	
	補足	実績値	
		単位	
④	名称	計画値	
	補足	実績値	
		単位	

年度計画				年度実績				
④ 事業の計画・実績	・耐震補強工事 川合椋川橋				・耐震補強工事 川合椋川橋			
	事業費	計画額	予算額	決算額	人件費	総人件費 ①	2,929	平均給与額×③
	国庫支出金	29,150	17,912	17,912		一般職員人件費 ②	2,929	
	県支出金		0		所要人員 ③	0.40		
	地方債		0		臨時職員人件費 ④	0		
	その他		0		受益者負担額 ⑤			
	一般財源	23,850	14,656	14,656	受益者負担率	0.0%	⑤ / ⑥	
	再掲	翌年度への繰越額						
		前年度からの繰越額		0				
		総人件費		①	2,929			
	総コスト		⑥	35,497				

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	橋梁耐震化補強事業計画に基づき年次計画的に事業を進めており、平成28年度は川合椋川橋の工事を実施するにあたり、前年度から本年度工事に備え、事前に河川協議を行っていたことで計画どおり工事発注が行え、工事も年度内完成が図れた。なお、川合椋川橋の耐震工事については単年度完成を計画していたが交付金の配当額が少なく2箇年での施工に計画を見直した。	総合判定 A 順調に進んだ
	【反省点・課題】	当事業は概ね計画どおり進捗しているが、社会資本整備総合交付金事業の配当率が年々減少傾向にあり財源確保が課題となっている。また今後も河川に渡架している橋梁修繕工事の実施については、河川管理者との協議で施工条件で渇水期の制約などあるが迅速な工事発注に努めていく必要がある。	

⑤ 事業の評価	【改善の方向性】	財源確保の課題があり、当事業で採択可能な交付金事業があるか検討していく必要がある。また、河川に渡架している橋梁については、河川管理者から渇水期の工事の制約を受けることから、前年度から事前協議を行うことで計画どおり工事が着手できるよう準備を行っていく。
	事業目的の妥当性: 適切	有効性: 適切